

Q

ＬＧＢＴの啓発活動についてどう考えるのか

A

正しい知識と理解の啓発に積極的に取り組んでいく

Q 東京オリパラを目前に、深谷市としても国際社会で胸を張れる多様なあふれる街づくりを目指して、パートナーシップ制度の導入を考えるとどうか。

A 市は「一人ひとりの人権・個性が尊重されるまち」を基本理念としている。制度の導入については、県の実態調査や国・県の動向など注視しながら調査研究をしていく。

―学校における働き方改革を問う―
Q 学校における在職等時間上限を踏まえた業務の適正化を徹底した働き方改革に対し、どのように推進し支援をしていくのか。

A 具体的な支援として、人的な支援に併せて学校支援システムの構築等、教職員が休暇を取りやすい環境整備に努めている。また、学校行事や教育活動の見直し等、教職員の負担軽減にも取り組んでいる。今後とも国や県の方針を踏まえ、教職員一人一人が持てる力を発揮できる環境

整備に取り組んでいく。

中矢 寿子

スマホは
こちらから



―子どもの貧困対策計画について―
Q 本市における計画策定への取り組み状況について聞きたい。

A 現時点での策定予定はないが、子どもの貧困対策の推進等を盛り込んだ「第２期深谷市子ども子育て支援事業計画」の今年度中の策定を進めている。子どもの貧困対策に関する大綱等を踏まえて、今後関係各課と連携し、推進していく。

エル・ラー・ディー
ＬＧＢＴってなに？

L	レズビアン Lesbian（女性の同性愛者、女性を好きになる女性）
G	ゲイ Gay（男性の同性愛者、男性を好きになる男性）
B	バイセクシュアル Bisexual（両性愛者、両方の性を好きになる人）
T	トランスジェンダー Transgender（心の性と体の性が一致しない人）

の頭文字から作られた言葉で、性的少数者（セクシュアルマイノリティ）の総称です。

Q

新型コロナウイルス感染について

A

国・県等と協議し対応していく

Q 新型コロナウイルス感染症流行による市内状況と消毒剤、マスク、医療機関等の保健防疫体制について聞きたい。また、ウイルス感染のマニュアルの計画について聞きたい。

A 国・県の情報提供・動向により市内状況に対応する。予防としての消毒剤は公共施設の入口等に設置しマスクは長時間の対面会場や保育園等で配布している。医療機関は「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」に基づき、国・県において体制の整備を進めている。また、マニュアルの計画については、平成26年に策定された「新型インフルエンザ等対策行動計画」を準用したい。

―大河ドラマ「青天を衝け」―
深谷市推進協議会について

Q 大河ドラマ「青天を衝け」に関連して、①協議会産業振興部会の役割と取り組み。②ドラマ館入場料。③ロゴマークの経済効果。④渋沢栄一記念館の整備計画について聞きたい。



なかんち
旧渋沢邸「中の家」

柴崎 重雄

スマホは
こちらから



A ①地域活性化の活動を考え、商品開発、市内回遊ルート・パンフレット、セミナー、観光ボランティアなどに取り組む。②他市町村の既設施設の入場料を参考に。③ロゴマークを使用した商品を市内外で販売する。④同一施設内の八基公民館多目的室に「LEDサイネージモニター」と移動式観覧席を設置し、駐車場を倍増し、増加が見込まれる来館者に対応する。

Q

子どもの教育・保育の推進体制を見直すべきでは

A

市民ニーズを捉え、最適な体制を検討していく

Q 子ども・子育て支援計画における幼児教育・保育の方途であるが、保育は更なる民営化、幼児教育は公立の保育サービスの拡大としている。少子化が進む中で、過大なサービスの量を見積もりすぎでないか。

A 保育園については、私立の方が財政的に有利であり、公立では、保育士を集約することにより保育サービスを充実させることから民営化を進めている。幼稚園については、多様化する保護者のニーズに応えるため、かねてから検討してきた保育サービスを実施し、幼児教育の充実を図っている。保育園や幼稚園の選択の幅を広げる計画である。実績による見直しをしていきたい。

Q 就学前の幼児について、子ども未来部で所掌してはどうか。

A 変化する市民ニーズを的確に捉え、市にとって最適な組織体制はどうかあるべきか、検討していきたい。



「平日の放課後子ども教室」
モデル校 大寄小学校

五間 くみ子

スマホは
こちらから



―新・放課後子どもプランの今後―

Q 国が示す目標を達成するため、平日の放課後子ども教室の展開は。

A 大寄小学校をモデル校とし、その成果を踏まえ、令和6年度までに全校で実施していく。

Q 学童保育と放課後子ども教室は、余裕教室を利用し事業を行っていくとしているが、連携は大丈夫か。

A こども未来部と教育委員会、各学校でこれまで以上に調整し、対応していきたい。

Q

第2の花園―C拠点整備事業として工業系の誘致は

A

計画的な土地利用の誘導に向け研究していく

Q 関越道を通行する観光バスなどを深谷に呼び込む策として、観光回遊策と市内経済へのインパクトは。

A 市内全体をベジタブルテーマパークと見立て、また深谷えん旅の一部の企画と連動させ相乗効果を生み出しながら市内回遊の実現を目指す。

Q 花園―C拠点整備事業のオープンに向け、周辺道路の整備は。

A 市道幹131号線を中心に、接続する国道道の交差点整備と生活道路7路線を予定している。

Q 防犯対策の一環として交番の設置は。

A 寄居警察署では交番の設置を検討しているが、いろいろな課題があり時間を要すると聞いている。市は今後、交番設置の情報収集に努め、警察署や関係団体と連携していく。

Q 第2の花園―C拠点整備事業として工業団地の造成など大規模な工業系の誘致はできないか。

A 市内のまとまった用地の確保が

富田 勝

スマホは
こちらから



非常に困難であるが、社会経済情勢等を踏まえて調査、研究していく。

―子どもの居場所づくり―

Q 埼玉県では、県内すべての小学校区800カ所に子ども食堂を設置する目標を掲げているが、令和2年度の深谷市施政方針では示されていない。今後の取組は。

A 市内では3団体が子ども食堂の運営をしており、市では公民館の貸し出し、開催チラシの配布、助成金の情報提供など今後も関係各課が連携して支援に取り組んでいく。

